

## 2016年、宮原良治福岡教区長 新年メッセージ

～いつくしみ深く、御父のように～

新年おめでとうございます。2016年も、「いつくしみの特別聖年」の中で、神様からの祝福と平和が、福岡教区民の上に豊かにありますようにお祈りいたします。

### 【今年の取り組み】

福岡教区では、2年間継続して教区目標である「信仰の伝達」に取り組んで来ました。昨年の「教区の日」には、各小教区や各地区で取り組んだ具体的な活動をミサ聖祭の中で神様に奉納しました。

報告書から見てきたことは、教区目標である「信仰の伝達」が、教区民の中に次第に浸透し始めていて、その意識が変化していることです。

意識が変わると、その取り組みや活動は決して一過性で終わることはありません。

必ず、継続的な活動や運動に進展します。

主任司祭と教会役員さんを初め、教区の目標に誠心誠意励んでくださっている皆様に心から感謝と敬意を申し上げます。

### 【今年の取り組み】

今年の福岡教区の目標は、「いつくしみの特別聖年」を制定したフランシスコ教皇様のご意向に沿って、「いつくしみ深く、御父のように」を目標にしたいと思います。

今年の目標とは言っても、特別聖年は既に昨年12月8日に開始され、年度途中の11月20日に閉幕しますので、全免償や特別聖年のお祈りなどが、年度途中で中断することになります。しかし、御父のいつくしみは世の終わりまで続きますので、その恵みに対する私たちの対応も、閉幕後も継続されるはずで

その意味で、特別聖年がたとえ年度途中で閉幕しても、教区の年間目標としての姿勢や取り組みには変更はありません。

### 【特別聖年の取り組み】

教区民には既に特別聖年の開始に際して通達を送付しました。既に各小教区や共同体で実践していると思いますが、まだ実施していないところでは、以下の項目を参考にして具体的な取り組みを企画・推進して下さるようお願いしました。

- ① 教皇様の「いつくしみの特別聖年」公布の大勅書を精読する。
- ② 主日のミサ聖祭の中で（もしくはその前後）、フランシスコ教皇の「いつくしみの特別聖年のための祈り」を唱える。
- ③ 黙想会・研修会などで「いつくしみ」のテーマを深める。
- ④ 四旬節第四主日前の「主に捧げる24時間」を企画する。
- ⑤ 司祭は、特にミサ聖祭の前（信者の要望があるときは何時でも）、「ゆるしの秘跡」の機会を設けるように心掛け、信徒に勧める。（「ゆるしの秘跡」は、神のいつくしみを具体的に体験できる最も効果的、かつ身近な手段です）
- ⑥ キリストのまなざしを日常生活の中で具体的に受け止めるように心掛ける。（特に朝目

覚めた時や床に就く前に、十字架の側の盗賊・マグダラのマリア・サマリアの女性  
・ マタイ・ザアカイなどに向けられたいつくしみ溢れるイエスのまなざしを感じ取る)

- ⑦ 周囲の人々にいつくしみを証しする。(身体的な慈善=飢えている人、渴いている人、着るものがない人、宿のない人、病人や受刑者、葬儀などの必要に応える/精神的な慈善=疑い迷っている人や知識が不十分な人への助言、罪人への戒め、苦しみ悩む人への慰め、身近な人の仕打ちへの忍耐とゆるし、死者と生者のための祈りなど)。
- ⑧ 共同体内部の非難、中傷、悪口、裁きなどの撲滅に心掛け、そのために祈り続ける。

#### 【いつくしみの応答としての信仰の伝達】

特別聖年に関する教皇様の呼びかけは幅広い内容を含んでいます。その中に、私たちが2年間取り組んだ「信仰の伝達」も強調されています。

教皇様は、特別聖年を公布した最大の理由を、「私たちが、御父のいつくしみの振る舞いを示す効果的なしるしとなり、私たちの信仰のあかしがより力強く、より効果的になるためです」と説明しながら(いつくしみの特別聖年公布の大勅書3参照)、更に、「御父が私たちにいつくしみ深い方であるように、私たちも他の人に対していつくしみを示す者になるように」(大勅書14)お勧めになり、具体的に、「無関心という壁を壊すことができるように総ての人に心を開き、世界の悲惨さと尊厳を奪われた多くの兄弟姉妹の傷をよく見るために目を開き、助けを求める人々の叫びに気付けるように耳を開き、私たちの存在と友情と兄弟愛の温もりを感じ取って頂けるように手を握る」(大勅書15)ように勧めています。昨年の繰り返しになりますが、「信仰の伝達のためには、先ず私たち自らが信仰を通して神様と出会い、そのいつくしみに触れ、神様と交わることの素晴らしさを実感していることが必要です。信仰の喜びや素晴らしさが現実に実感出来る人は、信仰の恵みによる感謝の対象が明確になります。感謝を意識できる人は、その恵みに十分に答えきれていない自分の不十分さや欠点が見えてきますし、それまでこだわり続けた偏見や独断や人間関係の歪みなども素直に見つめ直す事が可能になります」。その延長線上に、人に優しく、寛大で、共感し、ゆるしの心を持つことができるようになり、教皇様が切望なさっている「いつくしみの効果的な証人」になることができるのです。

#### 【最後に】

フランシスコ教皇様は、地方教会では「王であるキリスト」の主日の前週の11月13日に特別聖年の「いつくしみの扉」を閉じるように指示していますので、福岡教区では、その日に司教座聖堂で特別聖年を閉幕する予定です。

そして、11月23日(水)「勤労感謝の日」に予定している「教区の日」に、教区民が司教座聖堂(大名町教会)に集まり、特別聖年の恵みに対する感謝と、各小教区の一年間の活動をミサ聖祭の中で神様に奉納したいと思います。

特別聖年を有意義に過ごすことによって、福岡教区の中に神のみことばがこだまし、そのみことばが、ゆるし・支え・助け・愛のことばや行いとなって、神の民の中に響き渡りますように。

福岡教区長



ドミニコ宮原良治